

ギャンブル依存症対策調査 国立病院機構久里浜医療センターを訪問

初めに院長の樋口進先生から久里浜医療センターでのアルコール依存症やインターネット依存症などの各種の依存症に対する治療活動の概要についてお話を伺いました。依存症には物質依存（アルコール・ニコチン・薬物）と行動嗜癖（ギャンブル・インターネット）があり、わが国にはアルコール依存症が100万人以上、ギャンブル依存症が500万人以上いるとのことでした。また、インターネット依存症は中高生が高く男子で6.4%、女子で9.9%もあり、ギャンブル依存症と同様にヨーロッパ諸国での患者発症率を大きく上回っています。



国立病院機構久里浜医療センター

平成29年1月6日、国立病院機構久里浜医療センターをお訪ねし、ギャンブル依存症対策について専門医の河本泰信先生からお話を伺ってきました。

また、自罰意識や無力感、肥大化した羞恥心、自尊心の低下などがみられるそうです。その治療法は、まずギャンブルに依存する隠れた欲



公明党横浜市議員 団務調査会
旭代表 横浜市議員

わだ たくお
和田 卓生

市会調査報告

タック通信

Vol.20

とのことでした。

河本泰信先生からはギャンブル障害の診断と介入（治療）について伺いました。ギャンブル依存症患者の特徴は、家庭があり、仕事があり、学歴がある4代が多いとのことでした。20代でギャンブルを始め、10年ぐらいで依存症が発現すること。依存症の初期段階は、興奮を得るため掛け金額の増額や負けた金額を取り戻そうとする傾向があるそうです。

望（達成感や名誉欲など）を発見し、その欲望を他の方法で達成することを示すことだそうです。なお、世間的な調査では、カジノの開設でギャンブル依存症が増えるとは限らないそうです。

小児医療費助成の拡大

新小5・小6は小児医療証の申請が必要

平成29年4月から小学校6年生までの児童は、家庭の所得状況により小児医療費助成の対象になりましたが、新小5年生と新小6年生が助成を受けるためには、新たに小児医療証の交付を受ける必要があります。

この小児医療費助成制度は、平成4年9月の本会議において、横浜市議会として初めて小児医療費助成制度の必要性を主張し、翌年平成5年には当時の高秀市長を市長公舎にお訪ねし直談判して実現してきたものです。

今回の小5・小6年生から6年生までの小児医療費助成は、多くのご家庭で自己負担が500円以下となる助成制度です。

小学生の防災ヘルメットが携帯型から普通型に

平成29年度の小学校1年生から防災ヘルメットが携帯型から普通の子供用ヘルメットに変わります。横浜市では平成26年度から小学校1年生に折りたたみコンパクトな携帯型ヘルメットを配付してきましたが、携帯型ヘルメットは小学校1年生では扱いにくいことから普通の子供用ヘルメットを配付することにしました。

従来、横浜市の小学校では災害用に防災ずきんを使用してきましたが、平成23年の東日本大震災以降、児童の保護者からヘルメット使用の要望が多く私に寄せられました。私は、早速教育委員会に検討を要請しましたが、当時の教育委員会の判断では普通のヘルメットはかさ張るので不都合との回答でした。そこで、携帯型ヘルメットを提案し、平成26年度から携帯型ヘルメットが